

## 鶴岡市総合計画審議会（会議概要）

- 日 時 平成26年12月24日 午後14時00分から
- 会 場 東京第一ホテル鶴岡2階 鶴の間
- 次 第 (1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について  
(2) その他

1. 開会 進行：政策企画課 高橋課長
2. 挨拶 榎本鶴岡市長  
石黒会長
3. 協議 座長：石黒会長、協議資料説明：政策企画課 上野主査

### 以下意見の概要

#### 森林文化都市

##### ○委員

「ほとりあ」周辺の善寶寺から湯野浜、由良にかける海岸線の山並みには、冬でもかんじき、あるいは長靴で歩けるようなルートがある。山岳会会員は「庄内海岸アルプス」という名前をつけており、県外からも歩く人が来ている状況であるが、是非「ほとりあ」と海岸線を生かしたルートを活用してはどうか。

##### ○委員

森林文化都市について、市民に様々な機会をとらえ分かりやすく説明して欲しい。

#### 人口減少対策

##### ○委員

計画では、人口対策、子育て、雇用の問題が重要視されているが、是非これには経費をかけて、特に若い人たちが満足できるような取り組みを行って欲しい。

##### ○委員

人口減少対策の推進は産業の振興が非常に大きな要素となってくるが、一番危惧しているのはUターン対策である。高卒者のうち約1,000人が進学などで県外に出て行っているが、この人たちが2年後・4年後にUターンしてきた時、働く場があることが重要である。

##### ○委員

女性の登用や子供が中学3年になるまでの教育費に関する対応などの、安心して子どもを生み、その後働きながら子どもを育てていけるような施策を行うことにより、それが呼び水となりUターンしてくる人たちが増えてくるのではないかと。国と県の施策活用だけでなく、鶴岡市として独自の補助的なことができれば、なおさら売りになっていくのではないかと。

○委員

進学して2年後・4年後に戻ってくる人たちのデータを取る方法を研究して欲しい。

○委員

少子化対策に関する制度や助成などについて、中小企業への説明会を開催するなど積極的に普及啓発してほしい。

○委員

人口減少を食い止め、ブレーキをかける施策は大切であるが、ある程度減った人口で鶴岡市をどうデザインできるのかも並行して考える必要があるのではないかと。（まちづくり塾より）

○委員

鶴岡独自のUターンしやすい仕組みを、試行錯誤的でも具体的に実施していくような時期に来ているのではないかと。

### 市民生活分野

○委員

従来のようなコミュニティが壊れているが、改めてコミュニティのあり方や人間の生き方が重要となっており、こうしたことに力を入れて欲しい。

○委員

地域活動センターが藤島にできて、これから鶴岡全体で自治組織の連絡協議会みたいなものが立ち上がると思うが、役職名が地域ごとに違いどのような立場の人が分りづらいので整理して欲しい。

### 健康福祉分野

○委員

健康福祉分野にスポーツがいかんして取り入れられるかが大事であり、こうした取り組みにより5年後、10年後にどのように変わったのか統計的に出せば良いと思う。

○委員

市民スポーツが非常に盛んな本市として、スポーツが健康づくりや医療費にどういう影響があるのか、データを示してほしい。

→事務局： スポーツ・運動が健康づくりに与える影響は、スポーツ振興計画を作る際の検証の資料もあったが、本市の医療費でみると他市に比べて低いという結果が出ている。

また、健康増進計画の中でも市民がそれぞれに合った運動を毎日の生活に取り入れて継続していこうという目標値を持って取り組んでいるところであり、スポーツと日常の生活動作も含めた運動の習慣づくりは大変重要であるので、今後、一層市民に浸透させていきたい。

○委員

福祉全体に対して自助・共助・公助の取組みをどう具現化していくかということが整理されていないので、その辺を整理して欲しい。

○委員

老人力が発揮できる体制を作って欲しい。

○委員

日本海病院に鶴岡の市民の20%が流れているという状況だが、荘内病院の一番のウィークポイントは勤務医が足りないことである。全国平均の半分しかいなく、過剰勤務になっているので、統廃合を含めた独立行政法人化も視野に検討すべきではないか。

また、これから少子化で患者は減っていく方向にあるので、その中で庄内地方でどのように医療をより効率的に展開していくのか、酒田も含めて考えていかなければならない時期にきている。

○委員

湯田川温泉リハビリテーション病院について、計画の中に記載すべきでないか。

### 教育文化分野

○委員

企業が新たに進出するとき、最初に調べるのがその教育力だということを聞いたことがあるが、少子化対策としても教育というのは非常に重要なものである。そのためには、地域の子どもたちは地域で一貫して育てるといふことと、異分野間の交流・連携が重要である。

○委員

県外に出た子供たちは帰って来て働ける職場がないと戻ってこれないが、進学校は地域にどういった企業があり、そこに戻ってくるにはどういった勉強をすればいいのかということも教えてこなかった。また、中学校でも地域にどういった企業・産業があつて、将来、自分は地元に戻ってきたときにどういった仕事をするのかということも考えないとだめである。

森林文化都市についても、森林について学ぶ大学に進むという生徒が一人もいないが、それはどういった仕事があるのかイメージが湧かないからであり、中学時代に地域の産業・企業を勉強する必要があるのではないか。

○委員

今までの施策と新しい施策をいかにリンクさせるかが重要であり、リンクし合えばもっと力を発揮できるのではないか。それが教育面でも専門教育機関と高校との連携や、教育と観光の連携などにつながれば面白いのではないか。

○委員

文化会館は市の中心部に建設される立派な施設なので、ホールの方は別としても常時開館できるような体制をとり、教育だけではなく観光や福祉など様々な情報を発信できるようなシステムを作り上げて欲しい。

○委員

公立学校の中高一貫教育について本日の資料には記載されていないが、市民全体に及ぼす影響が極めて大きいので、実施計画に乗せる必要があるのではないか。

○委員

サイエンスパーク内に全国の高専の教員・学生が集まれるような研究センターができれば、全

国的に鶴岡をアピールすることができるし、鶴岡にいる学生たちは自分たちの学校の研究を一層理解しそれを応援しようと起業化していくのではないか。

○委員

本市には、海外の大会に頻繁に出場している水泳の選手が育っており、その他にもアーチェリー、ウェイトリフティング、パラリンピックのトライアスロンなどでも次のオリンピックあるいは東京でのオリンピックを目指して頑張っている若者たちがいるので、市としても支えて欲しい。

**農林水産分野**

○委員

この地域の豊かな食文化は農林水産という一次産業を土台にしてあるので、是非これをもっと深めトータル的にマネジメントする部署が必要なのではないか。例えば、「在来野菜」を「京野菜」とか「加賀野菜」のように何十年先を俯瞰した呼び方なりにしていき、この豊かな種という資源を伝統文化として作っていく必要がある。

また、鶴岡や庄内から様々な分野で活躍している方々とコーディネートし、新たな「6次産業」の展開を図って欲しい。

○委員

農業に関しては、安全・安心なものを作っていることにもっと自信を持ってもらいたいし、若者が面白がって農業に参入できるようなICT化を進める必要がある。

○委員

山林火災等で大木が無くなると、それを再生するまでは50年・100年かかるので、災害のない、もし有ったならば即座に対応できるような体制を準備して欲しい。

**商工観光分野**

○委員

なぜ都会から鶴岡に戻って来られないのかというと、仕事をする場所がないからである。公益大学や農学部などと食文化、あるいは農業、シルクなどが連携した形で企業を起こし、もう少しお金の儲かる工夫をしてもらいたい。

○委員

食文化創造都市に加盟認定されたということは鶴岡市にとってはビッグニュースであり、世界にメジャーデビューしたので、ここから市民と何ができるかを考えていくような恒常的な話し合いの場を作る必要がある。

○委員

山形デスティネーションキャンペーンでは大きな成果を上げたが、交流人口の拡大は経済全体に及ぼす影響が非常に大きく、これからますます重要な課題となるので、関東、東京方面でのキャンペーンは、持続・継続的にさらに発展させていくということが極めて大切である。

○委員

鶴岡市には多くの文化財があるが、産業や食文化などとも密接にリンクしながら交流人口の拡

大に繋げるなどの活用策を研究して欲しい。

## 社会基盤分野

### ○委員

空き家について市では条例化してその適正な管理を行っているが、市民に空き家の適正管理やその有効活用について周知されるような対応をして欲しい。

→事務局： 空き家対策につきましては、所有者の責任、責務を明記し、市が指導と場合によっては不利益処分が可能になることを規定した条例を平成25年4月に制定しており、空き家の管理については市民部の環境課、利用・活用については建設部の建築課が窓口となり連携を取りながら進めている。

市民の方の関心もそれ以来高まっており、相談件数は年々増加という傾向にありますし、相談があるごとに職員が基本的には現地に出向き、現地調査をした上で必要に応じて指導、連絡などの対応をしているという状況である。環境課だけではなく、各庁舎総務企画課にも空き家の担当者を配置しているのでご相談いただきたいし、今後制度のPRに努めていく。

また、11月に国会で特例法が可決され、立ち入り調査や固定資産税などの行政情報の利用が可能になりましたので、こういった国の動向なども十分把握しながら、空き家対策にあたっていく。

## 計画の推進

### ○委員

各地域に設置されている地域審議会が今年度で終わり、今後は地域振興ビジョンに基づく施策の推進を新たな協議会が継承するということであるが、その協議会の役割、また今後の取り組みに大いに期待している。

→事務局： 地域審議会は旧鶴岡も含めて、現在六つの地域で行っている。特に、鶴岡地域の審議会では、2カ年にわたり人口減少をどうやったら食い止めることができるかなどについてご議論いただいた。

### ○委員

ふるさと納税制度を鶴岡でも取り組んで欲しい。食文化創造都市に加盟認定されたので、これを全国に発信できる唯一の手ではないかと思っており、鶴岡では海があり、山があり、平野があり、季節、四季がはっきりしていることから様々な農産品、魚介類が採れるので、これを全国に発信して欲しい。

### ○委員

女性目線での優しさやきめ細かさも含め、女性の力が発揮される男女共同参画のあり方を実現していける仕組みづくりを公務員が率先して行って欲しい。

### ○委員

市全体に関して一番大きな影響力を持つ公務員の能力を少しでも上げて欲しい。具体的には、

コスト感覚と時間をもっと早くするという感覚と能力を身につけるため、是非市の教育研修の一環に取り入れて欲しい。

○委員

文化会館の建設には合併特例債を活用すると聞いている。今後この実施計画にある事業にも合併特例債を活用して行くことになると思うが、財政的な計画はどうなっているのか。

→事務局： これまで、新市建設計画の中で合併特例債を今後スムーズに活用するための計画をご説明しているが、その中の財政計画は文化会館への合併特例債の充当も含めたものとなっており、これに基づき粛々と事業を進めていく。

○委員

実施計画で一番大切なのは、計画をどのように推進して行くかである。市長の話にもあったが、市民と地域と行政の総合力の発揮、これを具体的にどのような形で推進するかをもっと時間をかけて方向付けをすることが必要でないか。行政からやってもらうだけでなく、自分たちが関わり地域の課題に取り組むことが重要で、パートナーズ事業などに手軽に取り組めるようにして欲しい。

○委員

この計画を本当に実行するには人材とお金が必要であると思うので、優先順位等を考えて取り組んで欲しい。

○委員

ごみの排出量について事業系ごみは目標をほぼ達成しているが、生活系のごみが達成されていないなどの資料が掲載されているが、こうした様々な数値目標は今後も定期的に市民に示し施策の推進につなげて欲しい。

○委員

世代を超えて情報を共有していけるような情報提供をして欲しい。（企画専門委員会より）

○委員

施策の中でも重要なことには優先順位も付けて、さらに重要なことには後期3年間でいつの時期にどこまで実施していくのかロードマップ的なものが必要ではないか。（企画専門委員会より）

○委員

食文化創造都市の推進や「ほとりあ」を中心とした自然学習環境教育、森林文化都市の推進など、各プロジェクトの質を高め進めていくために、高い知識・技術を持った専門的なスタッフの配置が必要な時期に来ているのではないか。

○委員

鶴岡に生まれて良かった、鶴岡で生きて良かったというような意識が各世代に育つような施策を進めて欲しい。